

# ■ 2020年度 入試問題分析シート ■

京都大学

前期日程

科目

数学(文系)

総括	試験時間	120分	難易度(昨年比)	難化	昨年並	易化
			分量(昨年比)	増加	昨年並	減少

〈総論〉  
 近年では一番難しいセットであった。①は計算が煩雑であるが是非とも答えを合わせてほしい。これが本年度唯一完答できる問題である。残りの問題で何とか結果を合わせることができそうなのは⑤である。具体的に書き出し実験し、規則性を見つけて結果だけでも書くこと。これをきちんと言葉にして解答を書き上げるのは厳しいであろう。数学が得意である受験生には不利なセット、数学が不得意な受験生にとっては差がつけられることがないセットであった。

〈特記事項・トピックス〉  
 ②は1995年の理系に同じようなアイデアを利用する問題がある。①は2011年の理系によく似た問題が出題されていた。

〈合格への学習対策〉  
 例年確率、微分積分、図形は頻出分野である。誘導のない問題が多いのが京大の特徴であるので、普段の問題集で学習するときは誘導のありがたみを感じる事が大切である。

## 設問ごとの分析

問題番号	出題形式	範囲	分野・テーマ	特徴(内容分析・解答上のポイント)	問題レベル
①	記述	II	定積分, 面積	2つの放物線と接線とで囲まれた領域の面積	標準
②	記述	I, II	2次方程式, 接線	2つの放物線が直交する条件と2つの2次方程式の解が一致する条件	やや難
③	記述	A	整数	$m, n$ の整式が16の倍数になることがある条件	難
④	記述	B	空間ベクトル	外接球の中心を始点とする四面体の4頂点の位置ベクトルの内積	難
⑤	記述	A	場合の数	4次ラテン方阵の場合の数	やや難

「問題レベル」は、本大学・学部を志望している受験生の入試レベルを基準に、問題の難易度を5段階〔難・やや難・標準・やや易・易〕で判断しています。昨年対比ではありませんので、総括の難易度(昨年比)とは連動しません。